

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800016		
法人名	株式会社メデカジャパン		
事業所名	土岐ケアセンターそよ風 グループホーム(1階)		
所在地	土岐市肥田浅野元町2丁目24番地		
自己評価作成日	平成22年11月27日	評価結果市町村受理日	平成23年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191800016&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中、日々の散歩・買い物・外出等地域との交流に配慮し、『普通の生活』をすることの発信の場として、施設の利用を得ることが出来るよう近隣の店舗・飲食店を利用し、近隣からは季節毎の農作物や花を提供頂いたり、畑での収穫も利用者の楽しみである。又自然環境の他、徒歩で利用出来る範囲内にスーパー・医療機関・飲食店・衣料品店等があり、利用者の希望に応じた支援に取り組んでいる。ボランティアの方の協力でヨガ・音楽療法・子供太鼓等楽しいひと時を持ち、ケアセンターの利点でもあるセンター内の利用者との交流や合同行事も行っている。利用者の思いに寄り添い、優しい居心地の良い生活の場を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路に近いが、自然の豊かな住宅街の一角にあり、散歩コースにも恵まれている。経営母体が上場企業に代わり、指揮命令系統が迅速化している。何よりも目立つのは、管理者の利用者や職員に対する人間味豊かな心遣いである。それが、現場職員の認知症ケアの質の向上に対する取り組みを支え、励まされ、利用者の明るい笑顔となっている。利用者一人ひとりの人格が守られ、地域と積極的にふれあいながら、思いに寄り添い、居心地の良い生活を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの際に理念を唱和することで、全職員への周知を徹底し、理念に沿った介護の姿勢作りに取り組むと同時に、地域に溶け込んだ普通の生活を目指している。	「地域とのふれあいの中で、本人の望まれることや気持ちを尊重する」という理念を、毎朝の申し送り時に唱和している。利用者の思いに寄り添い、優しい居心地の良い生活を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアによるヨガ・音楽療法・演芸会等への参加、ホーム周辺の草取り、散歩、買い物、喫茶・食事の場として近隣を利用することで地域の一員としての思いを発信している。	市の農業祭や神社の盆踊りにはできるだけ参加し、交流を深めている。行きつけの喫茶店や店の人たちとも積極的に交流している。ホームの夏祭りでは、近隣の人たちと共に楽しめるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	こども110番の設置、センター内行事への地域の方への案内や交流に務め、近隣の店舗を利用することで認知症高齢者も普通の生活が送れていることや職員の支援の姿勢を示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域・行政・消防署等の方々に参加を頂き、意見・要望、利用者や家族の思いを真摯に受け止め、申し送りやミーティングで職員への周知を徹底し、サービス向上につなげ、又会議で取り組みについての報告もしている。	行政や民生委員、消防署、家族等が参加し、2ヶ月に1回開催している。医療連携体制について説明したり、参加者からの意見を十分に受け止め、ケアの質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月毎の運営推進会議での意見や報告、困難事例の相談や家族からの質問等で行政との協力体制に取り組んでいる。介護相談員の受け入れによりサービスへの見直しに努めている。	利用料金の未払い等、事業所の実情を伝え、解決に向け相談している。運営推進会議への参加もあり、家族からの質問に回答したり、転倒防止等、安全確保への取り組みについての助言を受けている。	地域福祉の推進役である行政との関係が、依頼をしたり助言を受けるだけに留まらず、地域ぐるみの課題解決に向けて継続的な連携に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センター内の身体拘束廃止委員会の発足、ミーティング・センター会議での勉強会を行い、特に認知症利用者についての「拘束とは何か」を理解し、拘束のないケアの実践に向け取り組んでいる。	全職員が 拘束についての理解を深めるため、定期的に勉強会を行っている。何故、拘束してはいけないのか、正しく理解し、拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例を挙げながら「虐待防止」の勉強会を行い、日常的な行為や無意識で行いがちな行為に対しても徹底して防止に努めている。		

岐阜県 土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者個々の必要性について、家族との関係を理解することに努め、制度が必要になった方に対しては行政と連携しながら支援していく姿勢でいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に説明を行い、利用者・家族への心理面での配慮をしている。改定等については、会議や来訪時に説明・報告を時間をかけて行いながら理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、玄関に設置の「ご意見箱」、毎月請求書・お便りに同封して「身体状況・暮らしぶりのお知らせ」を送付し問い合わせにも対応出来るよう説明しており、時期を逃すことのないような配慮をし、運営に反映させている。	家族が意見や要望を表す機会として、面会時の話し合いと、毎月の「便り」に問い合わせ欄を設けている。利用者・家族の意向や問い合わせには、速やかに対応し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで職員の意見や提案を聞き、センター長と共に検討し、反映出来るよう努めている。又、随時意見・提案が出来るような雰囲気作りもしており、介護職員としての自覚を持ち、働きやすい職場を目指している。	現場職員の意見は、ユニット毎のミーティングで出されている。職員からは、働きやすい職場環境について意見を交わしている。意見・提案等は、管理者を通して、法人本部に伝えられ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員は年2回の人事考課、契約・パート社員は契約更新時に面談を実施、努力・実績等で昇給にもつながり、契約社員については正社員への登用も可能で、各自の向上心ややりがいにつながるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	面談において個々の目標や思いを傾聴・評価し、内・外部からの研修等案内の配布・回覧を行い、目標に向けての支援をしている。月1回のセンター会議での勉強会も随時行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や医療関係等主催の研修会・勉強会に参加し、交流・情報交換に努めている。社内のグループホームにおける担当者会議を3ヶ月に1回開催、情報収集の場として出席し、よりよいサービス提供に向け取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会をする際は、本人の思い、何を望み何に不安を感じているのかを傾聴し、必要に応じて段階を踏んで行うようにしている。本人の思いに寄り添うことで安心感を提供出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の見学・相談、申し込みの時から、家族の思いや問題・不安・要望を傾聴・共有し、入居が決まった時は、家族の立場を尊重した雰囲気作りに努め、信頼関係を築くよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階で他施設の申し込みや他のサービス利用等可能な選択肢の説明や相談に応じ、入居決定時は、面会を重ねながら得た情報を基に「介護支援計画」を検討し、提示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	目線を同じにすることで、共に助け合いながら生活する関係を築き、協働・憩い・外出等の場面ごとにやりがい・楽しみ・社会参加への思いを共有するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りの送付や来訪時には本人の心身の状態を必ず報告し、家族の思いを確認し共感の姿勢を持ち、行事・食事会等で一緒に過ごす時間や日常的な憩いの場を提供することで本人・家族の思いを支えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人・親戚の方による面会や外出への支援、地域の馴染みのある場所への外出や買い物・喫茶の機会を設けている。家族等からの情報を基に本人が築いて来た外部との関係を把握し、支援につなげている。	家族の面会が多く、顔を忘れていても語り合える場面作りを支援している。見たことのある風景や、入居してから馴染みになった喫茶店等を大切に、継続的に出かける等、関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流時や訪室の際は必ず見守り、必要に応じて介入し、個々の時間も尊重しながら常に利用者同士の関係作りに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事情により退去された利用者が新規に入所された施設を訪問したり、その家族からの来訪・電話や手紙による近況報告・相談も受けており、地域のホームとしての支援を目標としている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いを尊重した個別ケアに努め、より在宅に近づけるよう支援している。困難な時は、個別で思いを傾聴しながら納得のいくよう説明、必要に応じてプランの課題にすると共に家族の協力もお願いし、共に本人の思いを支援するよう努めている。	「一人ひとりの利用者の望みや希望を聴く」というホームの理念を実践し、思いや意向を把握している。把握が困難な場合でも、家族等の協力を得て、誠実に対応し、思いや意向に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報に加え、入所後家族・知人から得た情報や本人の日常生活で知り得た自分史をアセスメント表に付記し、全職員で共有出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の口頭での申し送り、業務日誌・申し送りノート等で明文化することで全職員が情報を的確に把握、共有化を図っている。特にヒヤリハット等に関しては、適時話し合い、最善の対応を検討している。「報・連・相」を徹底する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族による課題提供や、主治医・関係薬剤師・訪問看護師による専門的な視点を反映させながら、家族の協力・連携も介護計画に盛り込んでいる。定期的なカンファレンスに加え状況に応じた見直し、記録、家族への報告・説明をしている。	利用者や家族の意向、職員の気づきや意見、医療関係者からの視点を基に、一人ひとりの現状に即した介護計画を作成している。介護計画は、3ヶ月毎に、また、状況の変化に応じて臨機応変に見直し、その都度、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録では、本人との会話・言葉により背景にある物への気付きを重視しながらアセスメントにつなげている。介護計画の把握に努め、介護計画に沿った記録を心掛けることで、見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特変による受診、本人の希望による外出・買い物等家族の対応が困難な時は、家族に連絡・検討後職員が通院介助、外出支援をしている。本人・家族のニーズに沿うよう柔軟に取り組んでいる。		

岐阜県 土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ヨガ・音楽療法・演芸等各種ボランティアの方々の協力による支援、野菜の収穫等で近隣の方との交流の場の提供、避難訓練や介護相談員派遣等により地域との協力体制を取りながら安心・安全な生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム近くに位置するクリニックを主治医とし、隔週の往診、持病のための定期検診、特変時の家族への連絡と共に必要に応じた通院介助をし、より早く適切な対応が出来るよう支援している。本年8月、医療連携体制の整備を行う。	入居前からのかかりつけ医の継続と、家族の希望により、協力医を、かかりつけ医に変更している。協力医は、隔週に往診し、通院受診は、家族の事情に合わせ職員が同行し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本年8月医療連携体制整備のため、毎週訪問看護師による利用者の健康管理が可能となり、個々の利用者の情報提供等連携体制を取っており、適時受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	前回の外部評価以降入院例はないが、今までの事例として、入院先への訪問及び病院関係者との情報交換や、家族の意向等を含め退院に向けた話し合いを行い、実際にホームに戻られた例がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時、重度化・終末期のあり方について本人・家族の希望等を聞きながら説明している。医療連携体制の整備に伴い、適時本人・家族の意思を尊重しながら主治医との連携の下、ホームで出来ることを説明しながら話し合いの体制を取っている。	契約時に、重度化や終末期の在り方について説明し、同意を得ている。利用者の状況の変化に応じ、家族・医療関係者・職員と、ホームでどこまで出来るか等を話し合い、共有化を図りながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応出来るよう応急処置法をマニュアル化し、ミーティングでの勉強会を定期的に行い、全職員への意識付けを行っている。緊急連絡網の作成・掲示をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施で個々の移動能力の把握、移動時間等を確認し、消防署の協力体制の確認、センター内合同避難訓練の実施、近隣の方への協力をお願いを行っている。防災グッズ・食料・飲料水・簡易コンロ等物品の備蓄を行っている。	火災に対する避難訓練は、消防署の指導により、年2回、実施している。地域の協力を依頼しており、食品や水等を3日分備蓄し、安全担保の一助としている。	目の前に河川があることから、水害・地震・台風などへの対策として、行政から災害マップを取り寄せることや、夜間想定訓練等も検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の各場面や外出等においては本人の意思を尊重して行っており、居室・フロア等での休息や過ごし方も自己決定を基本にしている。何事においても強制的ではなく本人の思いを優先させ、日常会話においてもプライバシー確保に努めている。	一人ひとりの意思を尊重し、自己決定を受け入れ、強制したり、否定しないようにしている。生活の場面では、言葉づかいに注意し、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	役割作り・レクリエーション・散歩に至るまで必ず声掛けし、本人の意思決定を促している。個々の思いに耳を傾け、職員本位ではなく利用者本位の介護を心がけ、利用者の人格を尊重しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおよそ決まってはいるが、利用者の状態に合わせ柔軟な時間配分をしている。本人の希望により居室・フロアでの休息、利用者同士の居室での談話等個々の思いを優先し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散歩・外出は季節に合った服装に配慮し、買い物希望する方には随時家族と相談し支援している。理美容は、訪問理美容や家族の協力で馴染みの美容院利用、家族による散髪も可能で、本人の選択を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	対面式キッチンを活かし、個々の能力に配慮しながら食事の準備を共にし、調理の音・匂いを感じ、会話や食欲につなげている。食事中も職員が同席し、食後の食器拭き・台拭きも協働の場となっている。	利用者の好みに合わせ、食事のメニューが充実している。準備や片付け等は、利用者の力量や意向に合わせ、職員と共に行っている。要介助者が多く、職員も共に同じものを食べながら、やさしく言葉をかけ、さりげなく支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量のチェックをし、残量があった時は体調確認後補助食等に対応、又持病や義歯装着具合に配慮し、食事形態を変えて提供している。飲み物も嗜好に合わせて柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアへの声掛け・誘導を行い、必要に応じて見守りや口腔内洗浄等支援し、状態観察・口腔内の清潔保持に努めている。歯科受診等に関わる状態が発生した時は、速やかに家族に連絡し、対応している。		

岐阜県 土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握した自立支援を行っている。個々の状態に合わせて布パンツと紙パンツを併用しながら、カンファレンス等で検討し、家族とも相談し本人にとって最善の方法で対応出来るよう努めている。	利用者の重度化が進んでいるが、おむつより布パンツの使用者が多い。職員は、一人ひとりの排泄パターンを把握しており、いち早く気づき、トイレに誘導することで、自立への適切な支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や認知症高齢者に及ぼす影響を理解し、乳製品・繊維質の食材・水分の提供、散歩・レクリエーション等適度な運動への参加で対応し、排泄パターン把握によるトイレ誘導で自然排便を促すよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には全員が入浴出来るよう利用者と共に準備し、状況に合わせた柔軟な対応をしながら個々の能力を尊重した入浴時間を支援している。日々変化する状態に対して必ず申し送りをし、事故のない安全な対応に配慮している。	入浴は、1階は隔日、2階は毎日を基本としているが、利用者の希望や状況により、柔軟に対応している。利用者一人ひとりの能力に配慮し、ゆったり時間をかけ、楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の自由な時間を大切に、日中はソファ・居室・畳の間等での休息、夜間は自由な時間に入床して頂いている。夜間の安眠確保のため、日中の活動や入浴等で心身共にリラックス出来る生活リズム作りへの支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の主治医からの処方箋に必ず目を通し理解し、服薬時はチェック表への記入、薬セットは早番・夜勤者で二重チェックをし、事故防止を徹底している。常時症状の変化を観察・記録し、主治医・薬剤師・看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別対応に努めており、料理・園芸・野菜の収穫・歌唱・ゲーム等自分らしい生活の支援をしている。又、散歩、買い物、喫茶、外食等様々な場面で外出が図れるよう気分転換の場を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常に身体状況の把握に努めながら毎日の散歩、買い物、喫茶、野菜の収穫等に関わることが出来るよう、個々の希望や能力に合わせた対応をしている。本人の思いを大切に、家族や近隣の理解・協力を得ながら外出・外泊に向けての支援をしている。	食材の買い出しや散歩は、職員と共に出かけ、毎日の日課となっている。歩行の困難な利用者は日当たりのよい中庭での外気浴を楽しみ、家族の協力による外泊等も支援している。	

岐阜県 土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで金銭管理を行っているが、家族との連携の下現金を所持している方もみえ、安心感・満足感となっている。能力に応じて外出時に支払いをすることで社会参加・自身につながり、その意義を職員も理解し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて家族への電話を支援、家族からの電話も本人が直接会話出来るよう支援し、プライバシーや気分の安定を配慮し、居室や事務室で対応している。又、家族からの手紙も受け取ることが出来、喜びとなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全性を考慮しながら、利用者の意見や様子に配慮した光や音の調節を小まめにしている。畳の間や手作りののれん、ソファ等で生活感を、壁面や玄関の飾り、玄関・中庭の花、近所で頂いた野菜・花等で季節感を味わえるよう配慮している。	玄関のスロープに、利用者が手入れをした、パンジーの鉢植えが並べられている。広い空間はシンプルで、壁面には文化祭に出展した共同作品や思い出の写真等を掲示している。ソファやカーテンの色彩も目に優しく、落ち着いた雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員は、利用者が自宅ではないという思いが根底にあることで帰宅願望等様々な症状につながることを理解し、玄関や中庭のベンチ、フロアのソファ等の配置を工夫し、自由な時間を自由な場所で自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・生活用品等を持ち込んで頂き、自分の部屋であるという認識や安心感につなげている。居室担当を決め、衣替え等細やかな所まで心配りし、利用者と共に居室を整理する支援もしている。	使い慣れた鏡台や小物入れ、家族の写真等が、家族や居室担当者の工夫で、その人らしく配置されている。衣類等は大きな押し入れに収納し、ゆとりある生活空間で、安心して過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	様々な場面でソファ等を設置、自由に休息出来る空間とし、身体状況により居室に椅子を設置したり、居室・トイレ・浴室に名前や目印をつけ識別しやすく工夫し、壁面に時計を設置し、時間への見当識にも配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800016		
法人名	株式会社メデカジャパン		
事業所名	土岐ケアセンターそよ風 グループホーム(2階)		
所在地	土岐市肥田浅野元町2丁目24番地		
自己評価作成日	平成22年11月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの際に理念を唱和することで、全職員への周知を徹底し、理念に沿った介護の姿勢作りに取り組むと同時に、地域に溶け込んだ普通の生活を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアによるヨガ・音楽療法・演芸会等への参加、ホーム周辺の草取り、散歩、買い物、喫茶・食事の場として近隣を利用することで地域の一員としての思いを発信している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	こども110番の設置、センター内行事への地域の方への案内や交流に務め、近隣の店舗を利用することで認知症高齢者も普通の生活が送れていることや職員の支援の姿勢を示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域・行政・消防署等の方々に参加を頂き、意見・要望、利用者や家族の思いを真摯に受け止め、申し送りやミーティングで職員への周知を徹底し、サービス向上につなげ、又会議で取り組みについての報告もしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月毎の運営推進会議での意見や報告、困難事例の相談や家族からの質問等で行政との協力体制に取り組んでいる。介護相談員の受け入れによりさあービスへの見直しに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センター内の身体拘束廃止委員会の発足、ミーティング・センター会議での勉強会を行い、特に認知症利用者についての「拘束とは何か」を理解し、拘束のないケアの実践に向け取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例を挙げながら「虐待防止」の勉強会を行い、日常的な行為や無意識で行いがちな行為に対しても徹底して防止に努めている。		

岐阜県 土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者個々の必要性について、家族との関係を理解することに努め、制度が必要になった方に対しては行政と連携しながら支援していく姿勢でいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に説明を行い、利用者・家族への心理面での配慮をしている。改定等については、会議や来訪時に説明・報告を時間をかけて行いながら理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での機会をを始め、玄関に設置の「ご意見箱」や、毎月請求書・お便りに同封して「暮らしぶり・身体状況について」を送付し、問い合わせにも対応出来るよう説明もしており、時期を逃すことのないような配慮をし、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで職員の意見や提案を聞き、センター長と共に検討をし、反映出来るよう努めている。又、随時意見・提案が出来るような雰囲気作りもしており、介護職員としての自覚を持ち、働きやすい職場を目指している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員に対しては年2回の人事考課、契約・パート社員に対しては契約更新時に面談を実施、努力・実績等で昇給にもつながり、契約社員については正社員への登用も可能で、各自の向上心ややりがいにつながるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	面談において個々の目標や思いを傾聴し評価をし、内・外部からの研修等案内の配布・回覧を行い、目標に向けての支援をしている。月1回の全体会議での勉強会も随時行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や医療関係等主催の研修会・勉強会に参加し、交流・情報交換に努めている。社内のグループホームにおける担当者会議を3ヶ月に1回開催、情報収集の場として出席し、よりよいサービス提供に向け取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会をする際は、本人の思い、何を望み何に不安を感じているのかを傾聴し、必要に応じて段階を踏んで行うようにしている。本人の思いに寄り添うことで安心感を提供出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の見学・相談から申し込みの時から、家族の思いや問題・不安・要望を傾聴・共有し、入居が決まった時は、家族の立場を尊重した雰囲気作りに努め、信頼関係を築くよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階で他施設の申し込みや他のサービス利用等可能な選択肢の説明や相談に応じ、入居決定時は、面会を重ねながら得た情報を基に「介護支援計画」を検討し、提示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	目線を同じにすることで、共に助け合いながら生活する関係を築き、協働・憩い・外出等の場面ごとにやりがい・楽しみ・社会参加への思いを共有するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りの送付や来訪時には本人の心身の状態を必ず報告し、家族の思いを確認し共感の姿勢を持ち、行事・食事会等で一緒に過ごす時間や日常的な憩いの場を提供することで本人・家族の思いを支えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人・親戚の方による面会や外出への支援、地域の馴染みのある場所への外出や買い物・喫茶の機会を設けている。家族等からの情報を基に本人が築いて来た外部との関係を把握し、支援につなげている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流時や訪室の際は必ず見守り、必要に応じて介入し、個々の時間も尊重しながら常に利用者同士の関係作りに配慮している。		

岐阜県 土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事情により退去された利用者が新規に入所された施設を訪問したり、その家族からの来訪・電話や手紙による近況報告・相談も受けており、地域のホームとしての支援を目標としている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの意見・思いをコミュニケーションを通して把握するように努め、困難な場合も傾聴と寄り添いにより不安なく生活出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントは勿論のこと、入所後も家族・本人とのコミュニケーションから情報収集に努め、本人の希望に添えるようにし、職員が情報を共有出来る体制を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意思を尊重し、本人の能力と精神面や疾病も含めた健康状態を総合的に把握するよう努めている。口頭による申し送りや記録等で日々の状態を把握し、適時話し合いの場を持っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状・思いを把握し、チーム全体で話し合い、必要に応じて家族・医師・看護師の意見も参考にしながら介護計画を立て、月に一度のチームカンファレンスで検討・実践している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をその都度個別に記録し、職員全員が必ず目を通し情報を共有し、介護計画の検討・見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当センターのデイサービス・ショートステイを利用されている知人への面会を希望される場合は、可能な限り希望に添えるよう支援している。		

岐阜県 土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週一度のヨガボランティア、月一度の音楽療法ボランティアの来訪により利用者に楽しんで頂いている。他に演芸・踊り等のボランティアの協力もあり、センター全体での行事も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の主治医の往診を受けていると共に他の医療機関での適切な治療が出来るよう連携に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制整備により、毎週訪問看護ステーションの看護師による健康管理を受け、日々の状態や気づきを相談しながら適切な処置・対応の指示を受けている。又24時間体制での相談・指示が可能で、適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	現段階では入院の利用者はいないが、利用者がやむを得ず入院した際は、病院関係者と情報交換を密に行い、今後の支援の方向性を検討していく予定でいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族の意向を予め確認している。医療連携体制の整備に伴い、家族と終末期ケアについての話し合い・相談を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えたマニュアル化や社内研修を実施したり、各自で勉強をしている。訪問看護師への相談時は、急変の起こり得る場合についてやその判断・対応等について指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施と、普段から地域とのコミュニケーションを取ることで協力体制を築いている。日常的に個々の移動能力の把握に努め、防災グッズ・食料・飲料水・簡易コンロ等物品の備蓄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛け、対応には本人の尊厳を重視し、常に思いに添えるよう傾聴・対応を心がけている。本人や他の利用者のいる所でのプライバシーに関わる話は避ける等の配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が何を思い、何を希望しているのかを傾聴し、普段の関わりの中から思いの背景を考慮し、自己決定に導くよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々を尊重し、思いや体調に配慮しながら個別の対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に着用する衣類は本人に決定して頂いている。又、理美容では、訪問理美容も可能であり、行きつけの美容院を選択される場合は家族との連携の上、本人の思いを尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じた食事作り、片付け等一緒に行い、協働の場としている。旬の食材を取り入れて話題にし、楽しい食事時間になるよう雰囲気作りに努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の摂取量や能力を考慮しながら提供している。水分量・食事摂取量は記録に残し、一日を通しての量を確認し、個々の状態・体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの促しをし、必要があれば介入し清潔保持している。夜間は義歯を預かり、薬剤洗浄を施行している。		

岐阜県 土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや排泄能力・習慣を見極め、必要最小限の介入をしている。排泄チェック表を用いて職員同士の情報交換を徹底している。自立に向け、介入に対する見直し・検討を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から便秘を予防出来るよう食材に配慮する、水分摂取を促す等心がけている。運動量確保のため、散歩や体操等を取り入れ参加への支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意思を尊重し、入浴を楽しんで頂いている。拒否された場合は無理強いせず、時間を置いて再度声かけする、翌日の入浴を検討する等の支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・起床時間も個々の生活習慣を大切に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋には職員全員が目を通し、何度も読み直して薬の目的や副作用・用法・用量について理解している。薬服用後に状態の変化があった場合は必ず申し送り、状態の確認・対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活の中で、能力に応じた役割分担をすることで、生きがいややりがいを持ち、張り合いのある生活を支援している。普段の生活の中から個々の生活歴を伺い、日々の生活の中で活かせるような場面作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望の時間に戸外に出られるよう努めている。外出・外食等の機会を設け、近くのスーパー・喫茶店も利用している。地元の行事・演芸会等希望者と外出している。		

岐阜県 土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が一括して管理しており、必要に応じて買い物している。本人の希望があった時は、一緒に買い物出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添い、電話の取次ぎをしている。親戚の方との手紙のやり取りをされる方もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は、清潔さや明るさと言った機能性だけでなく、癒しの空間となるよう季節の花や装飾に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士でお気に入りの場所があり、畳の間、ソファ等思い思いに過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで本人が使用していた馴染みの物、好みの物を配置して頂けるよう家族と相談し、居心地の良い空間となるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力・今現在出来ること、支援の方法によって今後出来ると思われることを判断して、生活の流れの中で、その人の力が発揮出来るように声かけ、誘導を行っている。		